



DAILY SPORTS  
デイリースポーツ  
広島  
時報バン!

# 攻撃 本 だ



し、を  
返一将  
リード  
を緑ス  
をリグ  
振ス  
高め

### 選手の将来考え

その音は1方所からはなかつた。本塁後方、三塁と一塁横など、至る所

ながら、選手の将来を見据え、打撃練習に力を入れている。

### HIROSHIMA スポーツの広場

尾長ジュニアソフトボールクラブが、第23回全日本小学生男子ソフトボール大会(8月1〜4日・鹿児島市桜島岩谷グラウンド)に6年ぶり4度目の出場をする。同チームは練習の8割を打撃練習に充て、打撃力を磨いてきた。培った破壊力のある打撃で全国制覇を狙う。

しかし同チームにその考え方はない。「将来、彼らがソフトではなく野球をしたとき、打てなければ試合に出られない」と大本監督。目の前の勝利に重きを置きながらも、選手の将来を見据え、打撃練習に力を入れている。

### 尾長ジュニアソフトボールクラブ

から聞こえてくる。金属バットと球が衝突する甲高く強い打球音。今年で就任25年目を迎えた大本龍治監督(57)は「練習のおよそ8割は打撃練習です」と力を込めた。グラウンド全体に響き渡るその音が、尾長ジュニアソフトボールクラブの強さの原動力だ。

小学生では守備力強化に乗り出すチームが多い。特に近年は100m近くの剛速球を投げる投手が増加するなど、以前にも増して大量点を挙げることが難しくなった。だからこそ少ないチャンスをものに、それを守りきる。それが勝利への道だと考えられているからだ。

## 8月1日から6年ぶり4度目の全国大会出場!!

練習は17時から始まる。ナインはウオーミングアップとキャッチボールを早々に終えると、すぐさまバットを手にする。そして素振り、フリー打撃、ティー打撃とグラウンド全体を使い、バットを振り込んでいく。ただ力強くバットを振るのではない。選手が意識しているのは「打球が最も飛ばすポイントで球をとらえることだ。高畑翔主将(尾長小6年)は「手が最も伸びるところが一番飛ばす。そこで打てるように練習しています」と話した。さらに外角球を逆方向へ打ち返すこともテーマの1つだ。「外の球を引っ張っても意味がない。右方向へ打つことを心がけています」と豊川健太君(尾長小6年)。ティー打撃では外角にトスを連続して上げてもらい、コースに逆らわない打撃習得に励んできた。

練習の成果を示したのが、6月の今大会広島県予選だ。初戦を7-0で突破すると、その後も着実に白星を重ね決勝に進出。決勝戦は大重量こそ奪えなかったものの、1-0で優勝旗を手にした。大本監督は「全試合を通して1番から9番まで切れ目がなかつた。全員がいい打撃をしてくれた」と目を細めた。

初戦は8月2日、東月隅コンドルズ(福岡)と袋井ファイターズソフトボールスポーツ少年団の勝者と対戦する。選手にとってはこれが初の全国大会。それでも不安や緊張はない。高畑主将は広島県の代表として取っかきしない試合をして



練習の8割を打撃に費やしてきた尾長ジュニアソフトボールクラブの選手たち(撮影・市尻達也)

優勝したい。個人的には1試合1本は本塁打を打ちたい。豊川君は「練習でやってきたことをやるだけ。安打をたくさん打って優勝したい」と目標を語った。全選手が自信を持つ打撃。攻撃ソフトで目指すは日本一だ。(市尻達也)



トス打撃で外角球を打ち返す豊川君

### 31年不変の"ONAGA"

同チームは今年で創立31年目を迎えた。創立時から変わらないのが、白地にエンジで"ONAGA"の文字が記されたユニホームだ。練習場所として使用している尾長小の校旗がエンジを基調としているため、この配色に決まった。大本監督は「いろいろな大会に参加していますが、このユニホームが一番目立ちますね」と胸を張る。

選手にはシンプルなデザインが好評だ。高畑君は「かっこいいと思います」と笑顔ののぞかせ、さらに「だからこそ、全国大会ではこのユニホームで暴れたい」と力を込めた。